

睡蓮の絵と世界遺産



ジヴェルニー（モネの作品の庭園）

昨年の9月に起きた同時多発テロ事件の影響で少し下火になった海外旅行も徐々に回復して、また熟年旅行の再来です。

私達21名も熟年仲間グループで、この5月にヨーロッパを代表するイギリス、フランスに出掛けました。小さい時より世界地図を見ては、いつか行ってみたい遠い国であったのです。とうとう想像だけの国に行くことが実現したのです。

12時間と長い空の旅の終着地ヒースロー空港におり立ちました。両国全土のほんの点の存在しか観光することが出来ませんが、貪欲に見ようと好奇心と期待で気持ちはウキウキはずんでいきます。8日間と限られた日数の中を有効に生かして、名所旧跡を見て歩くわけですから、皆元気で重い大きなトランクと二人連れで、目と耳は特に張り切ってガイドの話も漏らさずに聞いていました。

ジヴェルニー

今回は主に北フランスを中心にコースを組みました。今日はノルマンデー地方のジヴェルニー、オンフルールとセーヌ川のほとりにあるルーアンに参ります。この国は農業国であるため水曜日が学校はじめすべて休日です。核家族率が50%と高く、この日は離れて暮らす子供と親達が違い、又宗教を学ぶ日でもあるのです。そのためバスは思うように走らず高速道路は渋滞である。

ノルマンデーとは、ローマ帝国崩壊後、北から来た人をノースマンと言われ、ノルマンデーと変化したそうです。昔終戦の年に耳にした地名です。太平洋戦争の末期に連合軍がノルマンデー海岸に上陸し、ノルマ

ンデー作戦を展開。戦争の終結を早めたと言われています。

ここジヴェルニーの村には印象派画家モネの記念館と、あの有名な睡蓮を描いた池と庭園があるのです。油絵を少しばかり描いている者にとってはぜひ訪れたい所です。

良く晴れ汗ばむような日差しを受けながら広々とした島が連なる、のどかな田園風景の中にバスは到着しました。館の手前にゆったりとした流れの小川がある。木々が覆いかぶさるように川面に垂れ、緑一色の美しい景色を見つけた。1枚の絵になると思いカメラにおさめる。園内は広大な土地を有し、大きな池の周りには花が咲き乱れてる。まさに百花繚乱とはこのことである。

ふと池の周り散道を歩きながら遠い昔のことが想い出された。それは今から14年前の1988年の秋の事です。

娘と茨城県近代美術館の開館記念に「モネとその仲間たち」を見に行った時である。会場いっぱい数十mの半円の睡蓮の大作の絵です。見た瞬間、圧巻そのものだったので。植物の緑は何百色と言われるほど微妙な色合いがあるのです。モネの睡蓮の緑はどんな色で表現しているのか一番関心を持って見たとこ



モンマルトの丘